新年度予算の見とおし

災害で多額の赤字発生か　義務的経費も大幅規制

―新年度予算の見とおし―

いま町議会決算特別委員会で審議がすすめられている昭和四十年度決算で、町一般会計は五百二十二万七千八百四十五円の黒字を生ずることになりました。ごぞんじのように町は、昭和三十九年度に約六千万円の赤字を解消するため三カ年の計画で財政再建計画をたてましたが計画を一年くりあげて二カ年でこれを全額解消し、昭和四十年度末で黒字決算となり、昭和四十一年度は、新しい希望のもとにスタートいたしました。しかし、七月の大水害で町財政はまたも重大な危機に直面することとなってしまいました。

昭和四十一年度町一般会計予算の総額は、十億二千二百九十三万二千円です。この額は、人口七万人をこえる高田市、三条市、新発田市などの年間予算に匹敵します。災害復旧費および災害救助費などが加わったことによって大幅に予算額がふくれあがりました。一方災害で減収となる町税の額は、約四千万円（国保税を含む）となり、事業費はもちろん、義務的経費においても大幅な規制が加えられていますが、それでもなお多額な赤字が生ずることは避けられないようです。

九億三百万円前後の予算規模

こうした状況のなかで、いま新年度予算の編成がすすめられています。財源の見通しからして新年度予算の規模は九億三百万円前後におちつくものと見られています。

歳入では、町税および地方交付税など使途の指定されていないお金（一般財源）は、三億一千九百万円が見込まれほかに国県補助金、寄附金あるいは地方債などすでに使いみちが指定されているものが五億八千四百万円です。一般財源のなかで町税は、一億三千四百万円が見込まれます。昭和四十一年度予算よりも約五百万円ふえていますが、水害がなかった場合を想定すると一千七百万円程度の減収です。

歳出では、町政運営のためにどうしても必要な義務的経費は二億九千三百万円で、この金額に一般財源があてられます。前年度から実施している継続事業（し尿処理場の建設、農免道路の建設、特殊排水事業、土地区画整理事業、都市計画街路事業、都市下水路事業、県道改良事業、高等学校建設事業、災害復旧事業など）を行なうためには国県補助金や地方債などのほかに六千三百万円あまりの一般財源が必要です。したがってこれだけを新年度に実施した場合でも一般財源で約四千万円の不足を生ずることになります。

このように新年度予算は財源難から新規事業はほとんど見込みがないというのが実情です。しかも昭和四十一年度は赤字決算が予想されるなどきびしい現実です。大災害をうけた直後であり、たえがたきをたえ、忍びがたきを忍んで町の建てなおしをはからなければならないというのが新年度に課せられた大きな課題です。

高かった投票率　演説会は一千四百人の聴衆

一月二十九日に執行された衆議院議員総選挙の町の結果は、次のとおりでした。告示された当初豪雪が予想され、投票率の低下が心配されましたが、一月二十五日に開かれた立会演説会では、町選挙管理委員会はじまって以来という一千四百人の聴衆が集まりました。投票率も予想以上に高く、男女平均で八十一・七九％（前回は七十三・三〇％）でした。

候補者別町の得票（得票順）

阿部　助哉	五、四四九票
渡辺　肇	四、二八三票
佐藤　隆	二、二九二票
稲葉　修	一、四七六票
石田　有全	七二一票
湯浅　豊治	五五三票
高岡　大輔	八〇票
村上吉五郎	五三票
有権者総数	一八、八七二人
内　男	八、八六五人
女	一〇、〇〇七人
投票総数	一五、四三三票
有効投票総数	一四、九〇七票
無効投票総数	五二六票

ことしは地方選挙のとし　四月に町長、県議選

衆議院議員総選挙は終わりましたが、ことしは地方選挙のとしです。四月の統一地方選挙には県議会議員（四月十五日）と町長選挙（四月二十八日）が予定されており、このほか七月下旬には町議会議員選挙が執行されることになっています。

県議会議員選挙には、ポスターの掲示が公営化され、また立会演説会も開催されることになっており、町長選挙では記号式投票制度が採用されることになっています。

各投票区ごとの投票率（パーセント）

投票区	男	女	計
第1投票区（高校）	88.67	88.43	88.54
第2投票区（すみれ）	87.58	85.39	86.40
第3投票区（中央公）	83.36	80.30	81.69
第4投票区（太田小）	86.66	82.21	84.26
第5投票区（木崎小）	82.47	73.72	77.73
第6投票区（下大谷内公）	80.57	75.33	77.87
第7投票区（笹山小）	79.34	76.66	77.97
第8投票区（浦ノ入公）	78.79	74.68	76.66
第9投票区（横井小）	81.08	72.34	76.57
第10投票区（早通小）	84.92	77.08	80.74
第11投票区（岡1小）	81.47	74.80	77.93
第12投票区（岡方中）	85.77	76.63	81.00
第13投票区（岡2小）	81.00	76.04	78.44
第14投票区（浦木公）	85.07	77.21	80.86
第15投票区（岡新田小）	91.13	80.57	85.38
第16投票区（長場小）	82.50	75.83	78.97
第17投票区（上亀小）	85.18	82.54	83.78
第18投票区（下亀小）	89.03	80.75	84.66
平均	84.48	79.40	81.79

最高裁判所裁判官国民審査

氏名	罷免を可とするもの	罷免を可としないもの
岩田　誠	1,182票	11,420票
色川　幸太郎	1,130	11,472
松田　二郎	1,058	11,544
大隅　健一郎	1,025	11,577
下村　三郎	984	11,618
柏原　語六	977	11,625
田中　二郎	872	11,730

高校建設急ピッチ　定時制二分校は統合　校章もできる

豊栄高等学校々舎の建設はいま急ピッチですすめられています。一部チラシでおしらせしたように、普通科程四学級、商業科程二学級計六学級定員三百人でこの四月に開校することになっています。校舎は七月に第一期工事が完工する予定で、それまでの間普通科程は葛塚中学校で、商業科程は葛塚小学校で間借りをし、遅くても第二学期には新校舎に移転することになります。すでに新聞などでもごぞんじのように、校長にスポーツ界の名門高田北城高校から田中政五郎先生が、教頭には新発田商工高校から稲岡悟一先生、事務長には新潟南高校から佐藤七郎主事がそれぞれ着任され、着々開校準備がすすめられています。

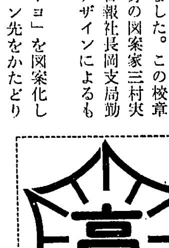
進学志望調査では、定員三百人に対して二百六十人（十二月十日現在）でしたが、二月十日正午で締め切られた願書受付の結果普通科三百四十五人（定員二百人）商業科百七十五人（定員百人）計五百二十人（定員三百人）となり競争率は一・七三倍となりました。

（葛塚中学校に設けられた新設高校の門柱　写真）

ペンを型どりトヨを図化案

このほど新設豊栄高校の校章がきまりました。この校章は、中町出身の図案家三村実（現在新潟日報社長岡支局勤務）さんのデザインによるものです。

豊栄の「トヨ」を図案化したもので、ペン先をかたどり教育、学問をあらわし、放射状は学校の発展と町の隆盛を示しています。また全体に新潟県を象徴する雪の結晶をもあらわしています。（凸版）



ご旅行の際のおたばこは町内のたばこやさんからお買い求めのうえ、お出かけください。
たばこ消費税として町の収入がふえることになります。

七・一七水害を絵に　図画教室で大作にとりくむ

豊栄図画教室（白新町浅井カメラ店内、新発田市築取幹雄さん指導）では、県展に七・一七水害をテーマとした作品を出展するためいまその準備をすすめています。この教室は小中学生を対象としたものですが、ことしはおとなもこれに加わって水害五部作とする計画です。六月にはこれを仕上げる計画ですが、ここ数年来連続して県展に入選している実績があるだけに、関係方面の注目をあつめています。

葛塚　長浦　卒業生は四百七十六人　十五年の歴史に幕

豊栄高等学校の新設に伴なって新発田商工高校葛塚分校と水原高校長浦分校は、新設高校に統合されることになりました。葛塚分校は、昭和二十三年六月に開校し、葛塚小学校の校舎で授業が行なわれ三十五年に現在の場所へ移転しました。この間、卒業生は四百七十六人をかぞえ各方面で活躍しています。また長浦分校は、昭和二十六年四月に開校し、百五十一人が卒業しています。

在校生三百四十人（葛塚分校二百三十七人、長浦分校百三人）は、四年生の卒業をまって豊栄高等学校に引きつがれることになります。そしてことしから豊栄高校夜間部一学級（定員五十人）が募集されます。

災害関係農業資金　総額十四億円にも達する

水害による農業関係資金の借り入れ申し込みの状況は、現在次のようになっています

天災融資々金　申込件数二千三十件、融資金額四億三千二百万円

自作農維持資金　申込件数千八百七十六件、申込金額七億四千九百万円

自作農維持資金については事務処理が複雑なため、県下各市町村農業委員会の応援を得てこの処理にあたりましたが、一月末現在で約七百件を除いて貸し付けがきまっています。これら二つの資金のほか、昭和四十一年度産米の予約概算金のうち、米が予約しただけとれなかったために今後返済しなければならない分は一億二千八百万円（十二月十日現在）であり、さらにあらたに米の配給を受けなければならなくなった農家では、配給米の代金を支払わなければならず、この米代金は一億四千万円くらいになる見込みです。このように、将来農家が返済していかなければならないお金は、水害前で約十九億円といわれていたところへ水害によってここえさらに十四億円をこえる額が加わることになり、町農業の将来に大きな課題をなげかけています。

〃蒲原盆唄〃　来月発売

昨年十一月東芝レコードで吹き込まれた「蒲原盆唄」「豊栄甚句」が三月五日に発売されることになりました。昨年七月に吹き込まれる予定だったものが、水害のため延び延びになっていたもので、佐藤仙六さん(下町)の唄で高橋喜、田村仁吉のみなさん（二人とも下嘉山）の笛、たいこそれに専門家の三味線、はやしことばがはいり、豊栄甚句の踊り方の解説も印刷されることになっています。